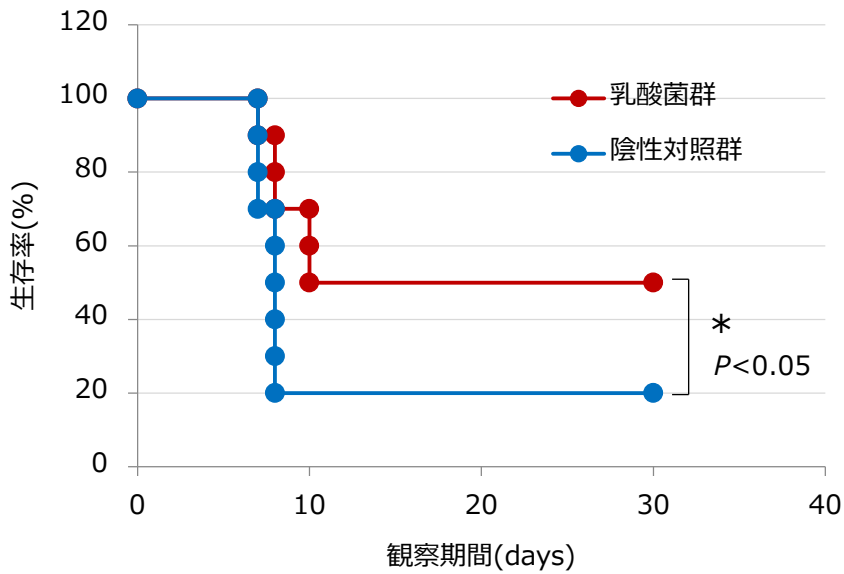


◆ ブレビス菌T001株とフェカリス菌NT株にインフルエンザ感染防御効果

インフルエンザはインフルエンザウイルスによって起こる感染症で、発症すると発熱・頭痛・咳・鼻水・筋肉痛などの症状を1週間程度伴い、最悪の場合は死にいたることもあります。

またインフルエンザウイルスはすぐに変異して新型となり、それに対応する抗体を作りにくいので、日頃から感染しないようにすることが大切です。

ブレビス菌T001株とフェカリス菌NT株はマウスを使った実験で、服用するとインフルエンザ感染予防に効果があることがわかりました。



ブレビス菌T001株とフェカリス菌NT株の乳酸菌2菌種をインフルエンザ感染前から投与し、インフルエンザ感染後のマウスの生存率を確認しました。陰性対照群の生存率が20%に対して、乳酸菌群では生存率が50%となり、生存率が有意に向上しました。

インフルエンザ感染予防効果があることがわかりました。

実験内容

- マウス：8週齢のBALB/c（雌）
- インフルエンザウイルス：A型（H1N1）PR8株
- 群分け：
 - ① 乳酸菌群（n=10）
 - ブレビス菌T001株（*Lactobacillus brevis* NTT001）
→ 1.3×10^8 cells/kg/day
 - フェカリス菌NT株（*Enterococcus faecalis* NT）
→ 1.7×10^9 cells/kg/day
 - ② 陰性対照群（n=10）
- 方法：乳酸菌2菌種をインフルエンザ感染1週間前にマウスに連日傾向投与させ、陰性対照群にはPBSを同様に投与しました。1週間後、インフルエンザウイルスを経鼻感染させました。さらに乳酸菌およびPBSは感染後も1週間連日経口投与しました。マウスの生死を感染後30日間観察しました。